

あーかす

米子医療センターマガジン#48
May 2025 (令和7年5月号)

ご挨拶

院長 鯉岡 直人

副院長 大槻 亮二

統括診療部長 奈賀 卓司

臨床研究部長 原田 賢一

看護部長 梶山ナミ恵

New Face

初期研修医通信～初期臨床研修を振り返って～
消防避難訓練を実施して

地域医療連携室の掲示板

栄養管理室の掲示板

Enjoy!学生LIFE



■ contents ■

03 ご挨拶

院長 鯉岡 直人

副院長 大槻 亮二

統括診療部長 奈賀 卓司

臨床研究部長 原田 賢一

看護部長 梶山ナミ恵

08 New Face

11 初期研修医通信 ～初期臨床研修を振り返って～

12 消防避難訓練を実施して

13 地域医療連携室の掲示版

14 Topics File～栄養管理室の掲示版

15 Enjoy! 学生 LIFE



患者さまと職員が向き合った姿で、患者さま中心の医療提供とYONAGO(米子)の「Y」、MEDICAL(医療)の「M」、CENTER(センター)の「C」の文字を、まごころ、信頼、安心、良質の医療をイメージする「ハート」に組み合わせ「米子医療センター」の明るく元気な姿を表しています。

あーかす

あーかす(Arcus)とはラテン語で「虹」を意味し、英語のArc(弓、橋)+Us(私たち)で「私たちが地域の架け橋になる」という意志を込めてタイトルとしました。私たちの持ついろいろな表情を、地域の方々や医療関係者に広く知って頂き、絆を更に深める情報を掲載してまいります。

ご挨拶

このたび、米子医療センターの院長に就任いたしました鯉岡直人と申します。微力ではございますが、地域の皆さま、そして医療スタッフと力を合わせ、当院のさらなる発展と地域医療の向上に努めてまいります所存です。

米子医療センターは、急性期病棟、地域包括医療病棟、緩和ケア病棟を有する多機能病院です。さらに、地域医療の中核を担う国立病院機構の医療機関として、日々の診療事業、臨床研究事業、そして教育研修事業を柱に活動を展開しています。これらの取り組みを強化し、地域社会に貢献することが我々の使命と考えております。

ぶりがお なおと
院長 鯉岡 直人

profile

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 【卒業大学】 鳥取大学
(鳥取大学大学院) | 【学会活動・専門医の資格等】
・医学博士 |
| 【卒業年次】 S60.3 (H1.3) | ・日本内科学会 総合内科専門医、認定内科医 |
| 【担当】 呼吸器内科
健康診断・検診 | ・日本呼吸器学会 呼吸器専門医、指導医 |
| | ・日本遠隔医療学会 呼吸器分科会委員 |
| | ・日本時間生物学会 評議員 |
| | ・鳥取県難病指定医 (専門医) |

診療事業としての地域医療の充実

当院は、地域急性期医療の中核の一翼を担っています。また、地域医療支援病院として医療機関と連携を強化し、より多くの患者さんに安心・安全な医療を提供することを第一に考えています。高齢化が進む地域においては、複雑化する医療ニーズに対応が必要であり、包括的な視点で患者さんに寄り添った医療を目指しております。その一環として、地域包括医療病棟を活用し、高齢者の急性期から回復期まで切れ目のない医療提供体制を構築しています。また、小児救急医療に対しても注力し、子育て世代の皆さまが安心して医療を受けられる体制を維持・充実させていく所存です。加えて、医療のICT化を積極的に推進し、地域医療連携の一層の強化に取り組んでまいります。

臨床研究の推進

医療の進歩に貢献するため、臨床研究の推進に取り組んでいます。最先端の医療技術や治療法を患者さんに届けるため、研究活動の質の向上を目指し、鳥取大学医学部とも連携しています。地域から発信する研究成果が、医療界全体の進歩に少しでも寄与することを期待しています。

教育研修事業としての人材育成

優れた医療人の育成は、未来の医療を支える土台です。当院では、研修指定病院として研修医の育成を行っています。さらに、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師を目指す学生の皆さんに対し、実践的な教育研修プログラムを提供しています。加えて、地域医療を担う次世代のリーダーを育成するため、現場に根ざした研修環境を整備し、医師、医療スタッフ、事務職員に対する教育研修事業を充実させていきたいと考えています。

さいごに

最後になりますが、米子医療センターが提供する医療サービスは、患者さん、地域社会、そして医療スタッフすべての方々の協力と信頼によって成り立っています。皆さまと共に歩むことで、より良い医療を実現し、地域社会に貢献してまいりますと考えております。ご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

二次急性期病院・ 地域連携拠点病院として 貢献してまいります

副院長 大槻 亮二



2025年4月1日付けで米子医療センター副院長を拝命いたしました大槻亮二です。2014年4月に鳥取大学整形外科から当院に整形外科医長として赴任いたしました。当時は国立米子病院の香りを残した旧病院で、天井には空調の配管がむき出しで、紙カルテ・紙伝票、生のレントゲンフィルム、オペ室の扉は足で蹴って開けるThe昭和の設備だったことが思い出されます。その年の7月に今の新病院が完成し最新の設備の病院となってうれしく思ったのが昨日の日のことです。

それまでの経営陣や職員の皆様の努力によって病院経営は安定、数年後にはAnnex（米子医療連携センター）の増築、3月末には年度末手当が支給される恵まれた状況がしばらく続き、個人的には整形外科臨床のみに注力していればよい状況でした。2020年初頭からの新型コロナ流行により、病院職員の気

力体力ともかなりのダメージを負いました。さらにコロナ補助金が減額されるにつれ、病院経営的にも厳しい状況が続いています。2022年度からは久留一郎新院長・南崎剛新副院長のもと経営の立て直しをはかれ、2024年1月には病院機能評価認定、2024年11月には鳥取県初の地域包括医療病棟を導入しました。病院機能の再構築とさらなる地域医療への貢献、健全な病院経営の光が見え始めたところです。

近年は大学病院や公立病院の70%が赤字経営といわれ、今後も人口減や物価高騰の影響が病院経営にのしかかってくるものと思われます。先の見通せない状況ですが、鯛岡新院長のもと今まで以上に鳥取県西部地域の二次急性期病院として、また地域連携拠点病院としてその役割を果たしてゆく所存です。一層のご指導・ご協力を賜りますようお願いいたします。



旧病棟



完成した新病棟（オープン前日）



統括診療部長に 就任して

統括診療部長 奈賀 卓司

陽春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本年4月1日付けで、米子医療センター統括診療部長を拝命いたしました、消化器外科の奈賀卓司と申します。当院の統括診療部長はたいへん長い間、整形外科の南崎剛先生（前副院長：昨年度定年退職されました）が担ってこられました。その後同じく整形外科の大槻亮二先生（現副院長）が引き継ぎ、長い間当院を支えてまいりました。大槻前統括診療部長によりますと、統括とは、ばらばらのものを一つにまとめること（ネット辞書）、とおっしゃっております。私が当院に赴任して早12年になりますが、今まで経験した多くの病院に比較し、米子医療センターはたいへん働きやすい病院であり、多くの優秀な職員がそろっており、またチームワークはたいへん良いと感じております。今後も風通しのよい職場づくりのために、私の役割は院内のいろいろな調整係として中心になることと感じています。

12年前と言えば、当院はまだ古い病院の時代でした。空調の配管がむき出しであったり、電子カルテではなく紙カルテに苦勞した記憶があります。それ以前のことで、当院の経営が非常に厳しい状況だった時、彗星のごとく現れた濱副元院長のたいへんご尽力により、V字回復いたしました（私は回復した後に赴任しましたので、良いのか悪いのかその苦勞は味わっていませんが、南崎先生をはじめたいへん苦勞された先生方は残念ながら定年退職などで今はほぼおられなくなっていました）。その1年半後に新病院が開院し、当院は急性期病院として順調に進み、順風満帆であったような気がします。しかしながらその後、地域医療構想が打ち出され、急性期病床の大幅な削減が計画されたと思われた矢先、今度は新型コロナの流行により病床不足

だと言って問題になりました。診療報酬改定では毎回病院にとっては厳しい方向へ向かい、また医師の働き方改革も進んでいます。医師の偏在化も問題となっています。ロシア-ウクライナ戦争も医療界に大きな影響を及ぼしました。コロナが概ね落ち着いたと思いきや、病院からは患者離れで多くの病院は赤字経営を余儀なくされるようになってきました。またコロナ明け再び地域医療構想が持ち出されました。首都圏など都市部では今後高齢者数が大きく増加するようではありますが、鳥取県においては、高齢化から過疎化へ向かう状況であり、人口減少に伴って高齢者人口が減少に転じ、医療・介護ニーズも縮小していくと考えられています。医療を取り巻く環境はこの10数年で目まぐるしく変わってきました。

当院はこの春、鯛岡直人先生が新しい院長に就任されました。環境は変われども、我々のやるべきこと、目指すものは常に変わらないものと思います。当院の基本理念である「地域の命を支える」そして、強く暖かくて優しい病院を目指して、院長、副院長の補佐役として、多くの職員とともに米子医療センターを守って行きたいと思っておりますので、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしく願います。



臨床研究部長に 就任して

臨床研究部長 原田 賢一



令和7年4月1日付けで富田桂公先生の後任として臨床研究部長を拝命いたしました原田賢一と申します。当院の臨床研究部長の資格として『臨床研究に意欲的かつ、造形が深い医師』と明記されていますが、私自身、当院に勤務してからこれまで約8年間、消化器内科医として診療（臨床）がほぼ100%であり、学会発表をわずかにするなど、研究に値することはほぼ行ってきておりませんでした。そのようなものが臨床研究部長の大役を仰せつかり、大変恐縮いたしております。

臨床研究部長の最重要の職務は、当院の要項によると『臨床研究部の運営責任を持ち、基礎的又は、臨床研究並びに新たな診断・治療等の開発、研究等を行う』とありますが、私自身、臨床研究部という組織を十分把握しておりませんので、このご挨拶をまとめるにあたり“文献検索”したことを“紙面発表”させていただきます。

現在、独立行政法人国立病院機構に属する病院数は140病院あり、臨床研究部は政策医療分野横断的な臨床研究を独自に、あるいは多施設共同で行う臨床研究組織として全国75カ所に設置されています。当院は平成16年（2004年）、国立病院機構の独立法人化に伴い、臨床研究部が設置され、多くの研究成果（臨床研究、治験参加、論文及び学会発表）を発信してきております。当院の臨床研究部には、①がん化学療法研究室（各種がんにおける薬物療法、骨髄移植の有効性等について、臨床的研究を行う）、②血液腫瘍研究室（血液疾患に対する薬物療法、骨髄移植の有効性について、臨床的研究を行う）、③骨運動器研究室（骨・軟部腫瘍に対する外科的治療、薬物療法の有効性について、臨床的研究を行う）、④腎医療研究室（腎医療の向上を目指した、臨床的研究を行う）、⑤

治験管理室（新薬等の開発を目指した治験の推進と精度管理を行う）の5つの研究室があり、臨床研究への参加及び企画、業績作成に努力しております。

こうしてみると臨床研究部は医師のための組織と思われるかもしれませんが、歴代の臨床研究部長の先生方を含めて臨床研究部に携わってこられた方々は、医師のみではなく、各部署からの研究活動も促し、そのお手伝いをしてこられました。ちなみに令和5年度倫理委員会では52の審議課題があり、そのうち半分の26課題は医師以外からのものでした。また、コロナ禍以前には臨床研究部主催で「院内発表会」が行われ、各部署の取り組み等をまとめ、発表する場をつくってこられました。今後も各部署からの臨床研究はもちろん、研究とまではなくても症例発表も積極的に行って頂くようにサポートする所存です。

とある検索エンジンに「臨床研究」と入力すると「患者さんの協力のもと、病気の原因や治療法の改善、医療機器の開発などを目的として行う医学研究です」と“AIによる概要”として出てきました。端的にまとめられており感心しましたが、それはともかく、「患者さんの協力のもと」、つまり患者さんの善意がなければ臨床研究は成り立ちません。そのためには患者さんの個人情報保護の上、患者さんの不利益にならないように医療従事者として各種倫理指針や法律を遵守しなければなりません。そして、臨床研究は医療従事者のためではなく、患者さんのために行い、患者さんにフィードバックするものということを改めて感じた次第です。

最後になりますが、なるべく早く皆様のお役に立てるように精進して参りますので何卒よろしくご挨拶申し上げます。



2025年度 看護部目標

- 患者・家族に誠実で丁寧な看護を提供する
- 確実な確認行動による安全・安心な看護の実施
- 病院経営への参画
- 看護専門職として、研修・研究に取り組む

看護部長に 就任して

看護部長 梶山ナミ恵

この度、令和7年4月より国立病院機構米子医療センター看護部長に就任いたしました梶山ナミ恵と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

自己紹介をさせていただきますと、私は、広島県呉市にある国立呉病院附属看護学校を卒業後、国立呉病院で勤務し、平成14年に浜田医療センターへ転勤しました。平成15年秋には、国立療養所広島病院（現在の東広島医療センター）へ転勤となり、広島へ戻りました。広島県内での勤務が長く、雪深い米子での生活は初めてとなります。毎日のカーブ情報が流れないテレビに寂しさを感じております。慣れない土地での生活に多少の不安と期待を抱えながら、米子に参りました。

この4月から、院長、副院長が同時に交代され、米子医療センターは新体制となりました。現在、全国的に高齢化社会が進

み、病院機能も役割分担されています。当院では、米子地区の急性期とがん診療を柱にしております。米子圏内で唯一緩和ケア病棟を持ち、がん診療に携わらせていただいております。また、昨年12月から地域包括医療病棟を開設しました。当院には、専門性の高い認定看護師が14名在籍し、それぞれが各分野で活躍してくれています。今後も、地域での役割が果たせるように看護師の育成を続ける必要があると考えています。当院の基本理念は、「地域の命を支える」です。行動規範は「強く、暖かくて、優しい病院を目指します」と謳われています。米子地区での当院での役割が遂行できるよう、皆様のお力を借りながら、暖かくて強く優しい看護師の育成に取り組んで参ります。

若輩者ですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。





整形外科 医長
藤田 章啓

整形外科の藤田章啓(ふじた あきひろ)と申します。

2025年4月よりお世話になっております。3月までは倉吉にあります鳥取県立厚生病院で5年間務めておりましたので、久しぶりに鳥取県西部の病院に戻ってきました。米子医療センターには15年ほど前に半年だけ勤務した経験がありますが、以前とは病院の建物も、一緒に働くスタッフも変わり、全く新たな病院に来た気分です。皆様のお役に立てるよう、邁進してまいりますので、よろしくお願ひいたします。



血液腫瘍内科 医師
前垣 雅哉

2025年4月より赴任しました血液腫瘍内科の前垣雅哉(まえがき まさや)と申します。

米子市出身で後藤ヶ丘中学校、米子東高校、鳥取大学を卒業しました。卒後は松江赤十字病院で初期研修を行い、その後は血液内科医として当院と鳥取大学病院で診療を行ってきました。

血液内科は新薬や新たな診療技術の進歩が著しい一方で、特に地方では高齢の患者さんに対する診療のニーズが増えている領域になります。情報・知識のアップデートを怠らず、患者さんに合った丁寧な診療を提供できるよう心掛けていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

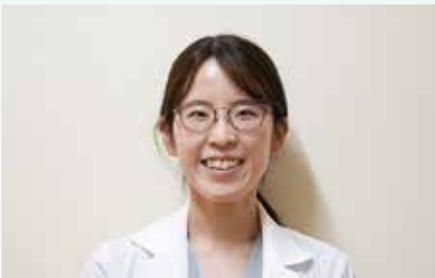


小児科 医師
矢倉 響

4月より小児科医として赴任しました矢倉響(やくら ひびき)と申します。

米子市出身で、米子東高校、鳥取大学医学部を卒業しました。初期研修は鳥取県立厚生病院で行い、鳥取大学小児科に入局しました。小児科医として鳥取県立中央病院、その後育児休業を経て大学病院勤務ののち、この度の赴任となりました。

小児科医としてまだまだ経験は浅いですが先輩方にご指導いただきながら日々奮闘しております。それと同時に、子供を育て守る事の大変さ、子を思う親の気持ちを痛感しているところですが、若輩者ではございますが、生まれ育った米子の小児医療に貢献できるよう精進してまいりますのでご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひいたします。



消化器外科 医師
藤田 真穂

2025年4月より赴任しました、消化器外科医の藤田真穂(ふじた まほ)と申します。

兵庫県伊丹市の出身で、現在医師6年目です。鳥取大学医学部を卒業後、2年間は地元の伊丹市で初期研修を行い、その後結婚を機に鳥取へ戻ってまいりました。鳥取大学、山陰労災病院での勤務を経て、この度の赴任となっております。

外科医というと男性医師を思い浮かべる方が多いと思ひますが、実は近年女性の外科医も増えているのが現状です。体力面など男性医師に劣る点はもちろんありますが、手術への熱意や、よりよい診療への気持ちに性別は関係ないと思ひます。

まだまだ未熟ではありますが、患者さんに寄り添った医療が提供できるよう精進してまいりますのでよろしくお願ひいたします。



消化器外科 医師
石黒 諒

2025年4月より消化器外科医として赴任しました、石黒諒(いしぐろ りょう)と申します。
鳥取市出身で、鳥取西高校、鳥取大学医学部を卒業し、松江市立病院で2年間の初期臨床研修を修了後に鳥取大学第一外科へ入局しました。
初期臨床研修を終えた消化器外科医としての1年目に米子医療センターで1年間勤務させていただき、この度は5年ぶりの赴任になります。当時お世話になった先生方やスタッフの方々もいらっしゃり、まるで久しぶりに実家に帰ってきたかのような安心感を抱いております。
消化器外科医としての基礎を学ばせていただいた米子医療センターで、また皆様に恩返しができるよう日々精進してまいります。まだまだ若輩者ではございますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



整形外科 医師
川口 真平

2025年4月より赴任いたしました、川口真平(かわぐち しんぺい)と申します。
長野県出身で、鳥取大学医学部入学後から鳥取県でお世話になっております。大学を卒業後、鳥取大学医学部附属病院で初期研修を行い、整形外科に入局いたしました。新しい病院への赴任となり、身が引き締まる思いです。痛みや外傷、運動器の機能障害で辛い思いをされている患者さん方の助けとなり、大学入学以来お世話になっているこの地域に少しでも貢献したいと思っております。また、これまで米子医療センターを支えてこられた先生方に少しでも近づきたいと思っております。まだまだ未熟者ではございますが、日々精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



泌尿器科 医師
清水 成

4月より泌尿器科医として赴任しました清水成(しみず なる)と申します。
鳥取県米子市出身で米子東高校、長崎大学医学部を卒業しました。鳥取県立中央病院での初期臨床研修を修了後に鳥取大学泌尿器科へ入局しました。その後は再度鳥取県立中央病院での勤務を経て、この度米子医療センターに赴任となりました。
泌尿器科は排尿障害などの日常的なトラブルから膀胱がん、前立腺がんなどの悪性疾患も対応させていただきます。些細なことでも構いませんので気軽にご相談いただけますと幸いです。まだまだ未熟ではありますが、精一杯精進してまいりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。



麻酔科 医師
乾 奈美

4月より麻酔科に赴任致しました、乾奈美(いぬい なみ)と申します。
米子市出身で、鳥取大学医学部を卒業しました。麻酔科として、当センターで手術を受けられるすべての患者さんの不安や痛みを最大限軽減し、安全かつ快適に周術期を迎えられますよう日々精進してまいります。生まれ育った地域に少しでも恩返しができますよう、頑張ります。何卒よろしくお願ひいたします。



初期臨床研修医
東岡 晃生

初期臨床研修医1年目の東岡晃生(ひがしおか こうき)と申します。
鳥取県鳥取市出身で、鳥取城北高校、鳥取大学医学部を卒業しました。
医師としての第一歩を踏み出し、日々新たな知識と技術を学ばせていただいている
ところです。まだまだ未熟ではありますが、医療チームの一員として患者さんとの信頼関
係を築くとともに、心のこもった医療を心がけます。初めての環境で不慣れなことも多く
ご迷惑をおかけすることになると思いますが、常に学び続ける姿勢を持ち、皆様のお役
に立てる一人前の医師となれるように日々の努力と研鑽を積み重ねていきたいと思っ
ております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



初期臨床研修医
福光 咲季

初期臨床研修1年目の福光咲季(ふくみつ さき)と申します。
広島県広島市出身で、鳥取大学を卒業しました。
まだ研修は始まったばかりですが、先生や看護師、職員の方々の優しさに触れ、医療
センターの温かさに日々驚かされております。特に先生方には、右も左もわからない初日
から、手技を一から教えていただき、拙い質問でも真摯に答えてくださるおかげで、まだ
未熟ながらも少しずつですが前進できているように思います。その優しさを無駄にしな
いためにも、自己研鑽を怠らないことを肝に銘じ、なるべく早くチームのお役に立てるよう
頑張っていきたいと思ひます。何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



初期研修医通信

～初期臨床研修を振り返って～



初期臨床研修医
生水 颯

2年間の初期臨床研修を終了し、振り返ると本当に充実した研修を送ることができました。ご指導いただきました先生方およびお世話になりましたスタッフの皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。

この2年間では多くの学会に参加する機会をいただき、様々な症例や最新の医療技術に触れることができました。手技を行う機会も多く、現場で得た経験は貴重な財産となりました。

院内には様々なクラブ活動があり、私はテニスやバドミントンに参加をしていました。活動を通じて、普段接することの少ないスタッフの方と親しくなることができ、仕事以外の場でも交流を深めることができました。このような活動がモチベーション向上にも繋がり、より充実した研修を送ることができました。

4月からは鳥取大学医学部附属病院で麻酔科専攻医として働きます。初期研修で得た経験を活かし、専門的な知識と技術をさらに深めていきたいと考えています。新たな挑戦に対して不安もありますが、これまでの学びを糧に一步一步成長していけるよう努めます。今後またお世話になる機会があると思います。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

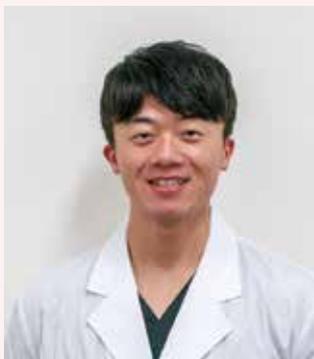


初期臨床研修医
山内 優太

初期臨床研修医として2年間米子医療センターでお世話になりました。今こうして振り返ってみるとあっという間の2年間だったように感じます。毎日とても充実した研修生活を過ごすことが出来たのは、ご指導いただいた先生方、支えてくださったスタッフの方々、またすべての患者さんや地域の皆様のおかげだと思っています。ありがとうございました。

私は2年間の研修のうち8か月ほど当院の整形外科で研修を行いました。手術、外来での診療、病棟での入院管理など整形外科医として必要なノウハウを南崎副院長をはじめとする整形外科の先生方にはいつも優しく、時には厳しく教えていただきました。なかでも初めて指導のもとでメスを握らせていただいた日のことは今でも鮮明に覚えています。

3年目からは整形外科の道に進み、鳥取大学医学部附属病院で専攻医として勤務させていただきます。これからも米子医療センターの初期研修で学んだことを活かし、生まれ育ったこの地域に貢献できるように頑張っていきます。本当に2年間お世話になりました。ありがとうございました。



初期臨床研修医
金田 凌弥

2023年度の4月から当院の初期臨床研修医として働き始めて2年間で多くのことを学ばせていただきました。必修科の研修では科ごとの疾患についての診断や治療について学びました。また、当直の際には救急外来で今後の医師人生で必要不可欠な様々な疾患の初期対応について学ばせてもらい、とても感謝しております。また、当院は医局の雰囲気が明るく、困ったことがあればすぐ先生に相談できる環境であり、2年間の初期臨床研修を無事終えることができました。2025年度からは、鳥大の整形外科の専門医プログラムに所属し、大学ならではの整形疾患を診ていく事になりますが、当院の研修で学んだことを忘れず、少しでも地域医療に貢献できるように頑張ります。2年間本当にお世話になりました。

消防避難訓練を実施して

6階病棟 看護師 渡部 誠



今回の消防避難訓練をとおして、まず初期消火をしっかりとすることの重要性を学びました。火災が起きた時に慌てて何も行動できなかつたらと不安に感じていましたが、事前に消火栓や消火器がどこにあるのかを把握しておき、いざという時にすぐ活用できるよう準備が必要であると感じました。災害時、高齢者や担送・護送の患者さんが何人いるのかも把握し、特に整形外科は自分の足で避難できる方ばかりではないため、当直看護師長や応援スタッフとの連携を密に図っていくことが大切であると学びました。不安な気持ちを抱えておられる患者さんに落ち着いてもらうためにも、まずは自分が落ち着くこと、そして状況をしっかりと確認した上で、患者さんに声をかけることも大切なことであると感じました。医療に携わる者として患者さんを第一に考え優先することは大切ですが、それと同時に自分の命も守れるように、ハンカチで口を覆う、普段からイメージトレーニングを行うなどのリスクマネジメントを行うなどできることはあると思います。

今回は火災の避難訓練でしたが、この先南海トラフ地震や首都直下型地震、また台風などの自然災害がいつ起こるかもわかりません。常に病院における避難経路の確認を怠らさず行っていくことも大切であると感じました。今回の避難訓練での経験を生かし、職員一同しっかりと日々災害に対する意識を高めてまいります。



消火器での消火活動



出火元の給湯室



当直ドクター、当直師長が現場に到着



消火栓での消火活動の様子



地域医療連携室の掲示板

地域医療連携係長 吉野 眞由美

在宅ケア研修会のお知らせ

米子医療センターでは、今年度も地域の医療や介護に従事されている方を対象に在宅ケア研修会を開催いたします。講師には各分野で活躍されている認定看護師さんを中心に薬剤部、リハビリ、栄養士さんなど多職種の方々のご協力をいただいております。気軽に参加していただける研修会を目指し、年12回の研修会を企画しています。昨年度も多くの方々に参加していただきました。ご参加いただいた方からは「内容が濃く、資料もいろいろなことが記載してあり、とても勉強になります。在宅向けに作成されているのがありがたいです」「丁寧に説明していただき、とても分かりやすく、実践してみたいと思うことがたくさんあり、知識も増えてよかった」という感想が聞かれました。この研修会では地域の医療従事者の皆様に役立てていただける情報をお届けできればと考えております。皆様方のご参加心よりお待ちしております。



2025年度 米子医療センター在宅ケア研修会

日程予定 【開催予定】下記日程のとおりですが、日程変更の場合もあります
研修場所 【場 所】米子医療連携センター1階 ぐずもホール 【時 間】18:00~19:00

参加人数 20～40名程度 **参加費** 無料

テーマ 「在宅看護・介護に生かすための専門的知識・技術について学び実践に活かす」

- 研修のねらい**
1. 地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点に準じる病院として地域への教育機関の役割を発揮し、地域医療及びがん医療の均てん化を図る。
 2. 地域医療従事者のニーズに応じ、地域医療に必要な知識・技術を提供し、医療福祉施設、在宅支援における実践活動に繋げる。

研修対象 地域医療に従事している看護職・介護医療従事者

◎研修予定

日 時	研修会内容	講 師
4月24日	糖尿病看護	糖尿病看護認定看護師 遠藤 朋子
5月22日	褥瘡ケア Part1	皮膚・排泄ケア認定看護師 船越 知春
6月26日	感染管理	感染管理認定看護師 遠藤 萌
7月24日	在宅で気を付けてほしい薬の話	薬剤部長 倉本成一朗
8月28日	在宅でできるリハビリ	呼吸認定理学療法士 柿本 真喜
9月18日	緩和ケア Part1	緩和ケア認定看護師 山崎 美沙
10月23日	褥瘡ケア Part2	皮膚・排泄ケア認定看護師 船越 知春
11月27日	スタマケア	皮膚・排泄ケア認定看護師 生田奈都子
12月18日	感染管理	感染管理認定看護師 荻 幹
1月22日	化学療法看護	化学療法認定看護師 小谷奈穂子
2月26日	認知症看護	認知症看護認定看護師 吉田 由香
3月12日	緩和ケア Part2	緩和ケア認定看護師 山崎 美沙

問い合わせ 米子医療センター 地域医療連携室 TEL:0859-37-3930 FAX:0859-37-3931

栄養管理室の掲示板



管理栄養士
川上 穂南

◇旬の野菜を食べよう!

厳しい寒さが過ぎ、だんだんと暖かくなり、旬の春野菜も店頭で見かけることが多くなってきました。今回は、春キャベツのレシピを紹介したいと思います。キャベツには秋に種をまき、春から初夏にかけて収穫される「春キャベツ」と夏に種をまき秋から冬にかけて収穫される「冬キャベツ」があります。冬キャベツは葉の巻きがしっかりしており、固くしまっていて、楕円形のような形をしています。春キャベツは葉の巻きがゆるく、ふんわりとしていて、丸みのある形をしています。外側の葉は濃いめの緑色をしています。中は淡い黄緑色で、水分が多く、葉が柔らかくて甘みがあるのが特徴です。春キャベツの選び方としては、葉の巻きがゆるく柔らかなものを選び、大きめでも重さが軽いものがよいとされています。

また、今回ドレッシングに牛乳を使用していますが、味噌や醤油の調味料を減らして牛乳のコクや旨味で美味しく減塩効果もあります。今回のレシピは電子レンジで手軽に調理できるので、美味しい春キャベツを選び、ぜひ作ってみてください。

☆春キャベツの温野菜サラダ ミルクドレッシング添え



【材料(1人分)】

春キャベツ..... 40g
ブロッコリー..... 30g
ベーコン..... 9g

A [ミルクドレッシング
味噌..... 10g
みりん..... 6g
砂糖..... 3g
牛乳..... 5g

【栄養成分(1人分当たり)】

エネルギー 102kcal
たんぱく質 4.8g
脂質 4.6g
炭水化物 12.1g
塩分 1.4g

【作り方】

- ① キャベツは2cmの短冊切りにし、ブロッコリーは房を切る。
- ② ベーコンは1cm幅に切る。
- ③ 耐熱皿に①②を入れ、ラップをかけ、レンジで600W2分温める。
- ④ Aの調味料を合わせ、レンジで600W30秒温める。
- ⑤ ③に④をかけると完成です。

レシピ提供:松江栄養調理製菓専門学校実習生



卒業の日



答 辞

先日までの寒波で大山が真っ白な雪化粧の中、少しづつ日差しが暖かくなり始めた今日の良き日に、私たち56回生33名は、卒業の日を迎えることができました。本日は、私たちのために、このような盛大な卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございます。また、ご多用の中、ご臨席くださいました学校長先生をはじめ諸先生方、ならびにご来賓の皆様、米子医療センターの職員の皆様方には、卒業生一同、心から感謝申し上げます。

思い起こすと3年間は、あっという間に過ぎていきました。3年前の4月、私たちは大きな期待と不安を胸に、看護師になるという夢を持ち、新たな学校生活が始まりました。専門用語の理解や基礎看護技術の習得に力を注ぎ、基礎看護学実習で初めて患者様と会話し、改めて看護師になるためには、たくさんの知識・技術が必要であることを実感しました。そして、迎えた宣誓式。学年でテーマを『兆し』とし、将来看護師になって患者様の希望に沿った看護が実践できる自分たちをイメージしながら学習に励んでいくことをナイチンゲール誓詞にのせて誓いました。その思いを胸に臨地実習で多くの患者様と関わりました。

私が印象に残っている患者様は、成人・老年看護学実習Ⅲ終末期で受け持たせていただいた筋萎縮性側索硬化症の方です。その患者様は、人工呼吸器を装着しており、視線入力装置を使用し、コミュニケーションをされていました。昔からお話が好きな方であり、私に好きなこと、昔の仕事のこと、もう家で暮らせないことなどたくさん話してくださいました。私は、その話を聞きながら、患者様がどのような思いで話されているのか、患者様の楽しみは何かなど考えていました。ある時、患者様が「視線入力は疲れる」と話されました。私は、患者様が苦痛な時は、眉間にしわを寄せる、目を閉じるなどの表情が変化することに気づきました。そこで、コミュニケーションを図る時間を決め、患者様に苦痛表情が見られた時には、休息を促すことや、アロマを使用したホットアイマスクを実施し、マッサージをしました。すると患者様は、とても気持ちよさそうな表情をされ、一時的ではありますが、苦痛

卒業生代表 細田 悠生

から解放されたと感じ、私もうれしくなりました。また、オーバーテーブルに置かれている保湿ジュルの使用について疑問に思い、尋ねると入浴後塗ってほしいとの希望を聞くことができ、希望に沿った援助をすることができました。また、カンファレンスで、その人らしく生きる、今をどう生きていくのかを支える看護について討議しました。グループメンバーで意見を出し合い、患者様のそばにいて気持ちを理解しようとするのが何より大切であるということ学びました。実習での学びは、患者様からの訴えを待つだけでなく、話や環境から思いを汲み取り、希望に沿った援助をしていくことが大切な看護であるという自己の看護観に大きく影響しました。

私たちの実習を受け入れ、学びの機会を与えてくださった患者様や、そのご家族の方々に改めて感謝申し上げます。時に厳しく、温かくご指導くださった教職員の皆様、いつも近くで応援してくれた家族に支えられ、今日卒業式を迎えることができました。皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、理想の看護師となれるよう努力し続けます。

在校生の皆さん、春には学年が上がり、看護職を目指す道のりの中で様々な試練にぶつかることもあるかもしれませんが、皆さんのそばには、支えてくださる教職員の方々や、同じ道を志す仲間、家族という心強い味方がいます。共に支え合いながら、充実した学校生活を送ってほしいと思います。

56回生の皆さん、3年間を振り返ると、多重課題の中でたくさんのことを乗り越えてきました。臨地実習や国家試験など、慣れない事ばかりで挫けそうになることもありましたが、最後までやり遂げることができたのは、同じ目標に向かって、一緒に悩み、互いに支え励まし合える、皆さんの存在があったからです。4月からは、それぞれ進む道は異なりますが、3年間の学びや、思い出を胸に、それぞれが描く理想の看護師像に向かって、進んでいきましょう。

最後になりましたが、ここにお集まりいただきました皆様方へ、ご健康とご多幸を心から祈念し、答辞とさせていただきます。



診療科	曜日	月	火	水	木	金	備考
総合内科		交替医	交替医	角田 宏明	交替医	交替医	
呼吸器内科		鯛岡 直人	池内 智行	唐下 泰一	池内 智行	唐下 泰一	
		唐下 泰一		池内 智行	山本 光紘		
		山本 光紘				鳥大医師	
専門外来			鳥大医師[肺がん外来]				
消化器内科		香田 正晴	原田 賢一	松岡 宏至	香田 正晴	松岡 宏至	
			角田 宏明	大山 賢治		原田 賢一	
血液腫瘍内科		足立 康二	足立 康二	前垣 雅哉		前垣 雅哉	
		梅田 未来	前垣 雅哉	但馬 史人 [第2・第4] 梅田 未来 [第1・第3・第5]		河村 浩二	完全予約制
	専門外来			フォローアップ			[診療時間] 13時~14時(予約制)
循環器内科			福木 昌治	福木 昌治	中村研介[第3]	福木 昌治	
専門外来	福木 昌治						[診療時間](月曜日): ペースメーカー外来 13時30分~予約制
糖尿病・代謝内科		角 啓佑	石井有李子	角 啓佑	石井有李子	門脇佳名子 [第1・第3・第5]	初診は紹介のみ
緩和ケア内科		八杉 晶子	八杉 晶子	八杉 晶子	八杉 晶子	八杉 晶子	*新患は要予約
腎臓内科			鳥大医師	山本真理絵	山本真理絵	山本真理絵	初診は水曜日、金曜日 再診は木曜日
神経内科						守安正太郎	初診は紹介のみ
健診		須田多香子	須田多香子	須田多香子	須田多香子	鯛岡 直人	事前予約のみ *乳がん・子宮がん検診を除く
小児科	午前	矢倉 響	佐々木佳裕	上山 潤一	矢倉 響	佐々木佳裕	[診療時間]8時30分~
	午後	佐々木佳裕	矢倉 響	交替医[急患のみ]	佐々木佳裕	上山 潤一	[診療時間]15時~17時
	専門外来		佐々木佳裕 [アレルギー]	交替医 [乳児健診] [予防接種]	検 査		[診療時間]午後~ *詳細な時間は お問い合わせください
消化器・一般外科		奈賀 卓司	藤田 真穂	菅澤 健	谷口健次郎	石黒 諒	
専門外来				ストーマ			第1,3週のみ 予約制 [診療時間]13時~16時
胸部・乳腺外科		万木 洋平	万木 洋平	万木 洋平	交替医	万木 洋平	
			引野愛莉香			引野愛莉香	
専門外来	リンパ浮腫			リンパ浮腫		フットケア	予約制 *リンパ浮腫は 月・水曜日の午前中のみ
整形外科		遠藤 宏治	遠藤 宏治	大槻 亮二	南崎 剛 [木曜日午前]	藤田 章啓	
		藤田 章啓	林原 雅子	川口 真平	大槻 亮二	林原 雅子	
			川口 真平				
	専門外来	遠藤 宏治	遠藤 宏治		南崎 剛 [木曜日午前]		骨軟部腫瘍
専門外来		林原 雅子		大槻 亮二	林原 雅子	火曜:関節リウマチ外来 木曜:関節外科外来 金曜:手の外科外来	
泌尿器科		磯山 忠広			磯山 忠広	磯山 忠広	
		清水 成	田村 文	小山 優里	清水 成	清水 成	
放射線科		杉原 修司	杉原 修司	杉原 修司	杉原 修司	杉原 修司	
専門外来			吉田 賢史				放射線治療(完全予約制)
歯科口腔外科			川崎 誠	川崎 誠	川崎 誠	交替医[予約のみ]	*金曜日は要相談
耳鼻咽喉科		交替医	山本 祐子		交替医		
眼科			三宅 敦子		三宅 敦子		
婦人科						交替医	7月~12月のみ月・金

時間 (診療受付)8時30分~11時 (健康診断受付)毎週火・水・金/予約制

診療情報提供書・FAXによる紹介状の送付先